

上伊那社会科研究会レポート

「パフォーマンス課題」の実践

伊那東部中 北澤亮介

★パフォーマンス課題とは

新学習指導要領では、「3つの柱」として整理された資質・能力の育成を目指すことが示される中、新たな評価方法の探求の中で注目されている評価方法の一つである。パフォーマンス評価は、パフォーマンス課題とルーブリック（評価の指標）を生徒に示して課題に取り組み、示したルーブリックに基づき評価する評価方法の総称である。「パフォーマンス」とは、知識や技能の活用を含めた思考力・判断力・表現力や態度を総括的、一体的に発揮した生徒の活動を意味する。

事例① 小単元『明治維新とアナザーストーリー』（3年）

◇授業学級 3年6組（男子17名 女子20名 計37名）

◇単元について

中学校社会科歴史分野においては、日本の歴史の大きな流れを理解することに主眼が置かれている。明治維新は、日本史上最大の歴史変革であり、政治的変革であるだけでなく、社会的・経済的・文化的変革でもあった。このような激動の情勢の中で、日本は明治維新という大変革をおこなって、古い幕藩体制を解体し、近代国家へと進んでいった。それは、薩長両藩の下級武士を中心とする維新官僚や、豪農商、民衆といった政府や人々の努力によるところが大きい。この時代に四民平等のもと、よりよい国づくりを目指し多くの国民が社会に参画したことは、現代に生きる私たちも学ぶべき事が多い。これから社会を担っていく中学生にとって、日本が大きく変わった明治維新の全体像を様々な視点から学習することは、意義深いことだと考える。

以上のことを踏まえ、本単元では、時期や時間の推移という視点とともに、明治を動かす大久保利通や西郷隆盛、伊藤博文など「人」の想いや動き＝「アナザーストーリー」という視点等でも「見方・考え方」を働かせるように学習過程を構成していく。また、新学習指導要領施行に合わせ、単元のまとまりを意識した単元構想・評価が必要とされている。そこで、単元終末時に明治維新を大観する時間を設け、「明治政府は、どのような国家をつくらうとしたのだろう」という単元を貫く問いについて、これまで学習してきた内容を想起しながら振り返るよう設定した。その際、昨年度から単元終末時に行ってきた『パフォーマンス課題』を設定し、生徒が主体的に自分の言葉で表現する活動を行う。近代国家の予算案を軍事・教育・外交・産業をグラフにすることで国内外の情勢を加味しながら、明治を多面的・多角的に考えることができるだろう。

◇小単元の目標と評価規準

・小単元目標

王政から立憲国家へと、欧米諸国が近代化していった過程を学習した生徒たちが、近世から近代へと時代が移り変わり、新しい国家体制が日本でも形成されていく場面で、明治政府がどのような国家をつくりあげようとしていたかについて、様々な政策や改革、人々の努力からその目的や情意を考え、日本が目指した国家とは天皇を中心とした中央集権国家・立憲国家であり、政治的にも経済的にも欧米と対等に渡り合える近代国家であることや、それに伴い人々の生活が大きく変化したことを理解できる。

・評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・開国とその影響、富国強兵・殖産興業政策、文明開化の風潮、大日本帝国憲法に制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解している。	・工業化の進展と政治や社会の変化、明治政府の諸改革の目的、近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、近代の社会の様子を多面的・多角的に考察し、表現している。	・近代の日本と世界について、見通しをもって学習に取り組もうとし、学習を振り返りながら課題を追求しようとしている。

◇小単元計画(全9時間) (○…「評定に用いる評価」●…「指導改善につなげる評価」)

時	・内容 問題 ◎活動 ☆人	・活動内容 【評価略】	評価		
1	・新政府の成立 ☆西郷隆盛 ◎新政府は近代国家をつくるためにどのような改革を行ったのか調べる。	・江戸幕府が滅亡するまでの流れを復習。 ・「五箇条の御誓文」から近代近代日本が目指した国づくりとその影響を考え、「廃藩置県」「解放令」など諸政策の目的を考える。	知	思	態 ●
	【単元を貫く学習問題】 明治政府は、どのような国家をつくらうとしたのだろう。				
2	・明治維新の三大改革 ☆大久保利通 ◎三大改革が人々の生活に与えた影響を考える。	・学制、兵制、税制の改革の目的や、当時の人々の受け止め方を示す資料を活用して政策の目的を考える。	●		
3	・富国強兵と文明開化 ☆渋沢栄一 ◎欧米諸国に対抗するために、どのような政策がとられたのか調べる。	・富国強兵のスローガンのもと進められた殖産興業の諸政策について知り、明治政府の経済力を向上させた背景を説明する。 ・文明開化の様子を資料から読み取る。	●	○	
4	・近代的な国際関係 ☆岩倉・板垣 ◎明治政府は、近隣諸国とどのような	・岩倉使節団が、考えたことを推察する。 ・明治政府が行った外交関係について知り、征韓	●		

	外交関係をつくったのか調べる。	論派と内治派の主張について考える。			
5	・国境と領土の確定 ◎国境と領土の確定が必要なのはなぜか考える。	・日本と東アジアとの領土確定の背景を知り、北方領土・竹島・尖閣諸島の編入について、関心を高める。	●	●	
6	・自由民権運動の高まり ☆大久保利通☆板垣退助☆大隈重信 ◎市民は、政治に参加するためにどうような行動を行ったのか調べる。	・政府への不満が高まり、自由民権運動に発展していく背景を考え、明治政府が条例を制定し、民権派を弾圧したことを知る。 ・私擬憲法をつくり、交流する。	●	●	
7	・立憲制国家の成立 ☆伊藤博文 ◎明治政府がドイツの憲法を見本にした理由を考える。	・大日本帝国憲法と憲法草案を比較する。 ・教育勅語の資料を読み取り、忠君愛国の道徳が示された理由を考える。	●		●
8	・明治維新まとめ①②	・パフォーマンス課題に取り組み、全体で交流	○	○	○
9	(本時)	後、もう一度、単元の問題について考える。			

◇本時案(全9時間中の第9時)

(1)本時の主眼

明治政府が国づくりのために様々な政策を行ってきたことを知った生徒が、学習問題「明治政府はどのような国家をつくろうとしたのだろう」をまとめる場面で、これまでの学習を想起しながら、近代国家を目指す日本にふさわしい国家予算案を友と考え合うことを通して、近代日本の国づくりに関わった先人に対する関心を高め、明治政府の国づくりについて多面的・多角的に考えることができる。

(2)展開

- 1 学習問題とパフォーマンス課題を確認する。
- 2 自分の考えを班で発表し、班ごとに予算案を考え、ホワイトボードにまとめる。
- 3 すべての班のホワイトボードを掲示し、共有する。
- 4 全体で共有する。
- 5 明治五年実際の予算案を提示する。
- 6 単元の問題についてまとめる。

単元を貫く学習問題
明治政府は、どのような国家をつくろうとしたのだろう。

【パフォーマンス課題】

江戸時代が終わり、いよいよ時代は近代の幕開け！近代国家を目指す日本の大切な時期です。あなたは、明治政府の大蔵大臣(日本の財政を一手に担い、予算を立てる人)として、近代国家「日本」にふさわしい予算案をつくることを命じられました。そして、その予算案を明治天皇に上奏(説明)します。天皇「さて、予算案を報告せよ。」

「では円グラフとともに説明いたします。・・・」この続きを書きましょう。

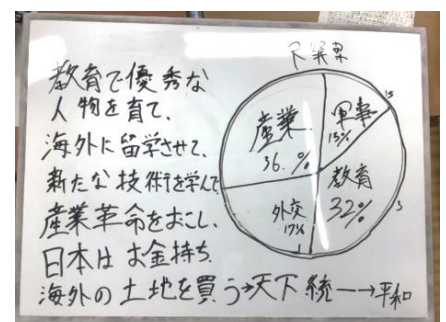
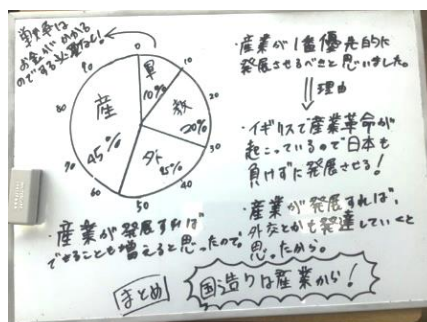
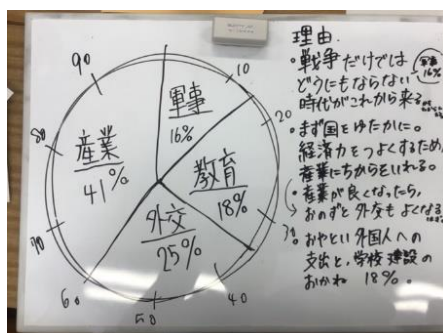
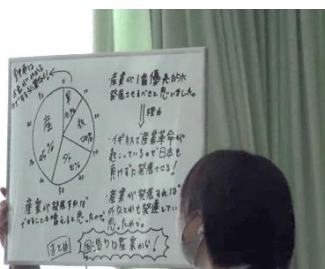
*軍事・教育・外交・産業の4つの分野の予算案を円グラフで表しましょう。

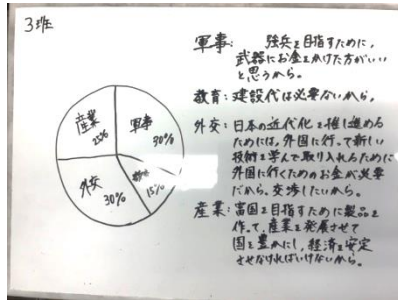
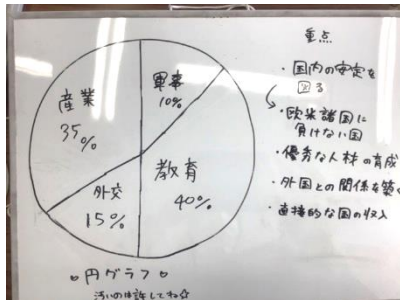
*なぜ、そのような予算配分にしたのか、明治天皇に伝わるように書きましょう。

【ループリック】

S 評価	A 評価	B 評価	C 評価	D 評価
A + 表現が興味深い(おもしろい！)	明治政府の諸政策と関わり、時代を比較し、多面的・多角的な視点で表現している！	明治政府の諸政策と関わり、多面的・多角的な視点で表現している！	明治政府のある特定の政策と関わらせて表現している！	明治政府の政策と関わらせての表現が不明確！

◎本時の様子





授業の様子については簡単にお話します！

【パフォーマンス課題】

江戸時代が終わり、いよいよ時代は近代の幕開け！近代国家を目指す日本の大切な時期です。あなたは、明治政府の大蔵大臣(日本の財政を一手に担い、予算を立てる人)として、近代国家「日本」にふさわしい予算案をつくることを命じられました。そして、その予算案を明治天皇に上奏(説明)します。天皇「さて、予算案を報告せよ。」

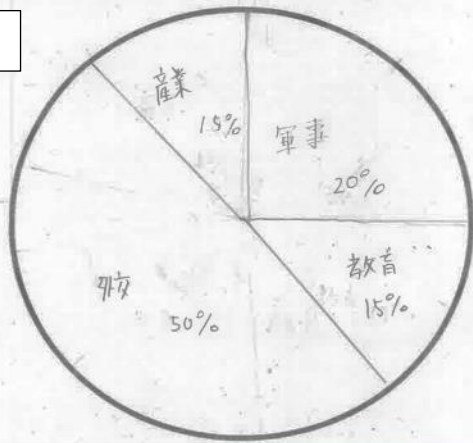
「では円グラフとともに説明いたします。…」

この続きを書きましょう。

*軍事・教育・外交・産業の4つの分野の予算案を円グラフで表しましょう。

*なぜそのような予算配分にしたのか、明治天皇に伝えるように書きましょう。

T 生



では、円グラフをもとに説明いたします！

今の日本における重要なものは「外交」、であると考えます。

今まで我々は、陸海と海を渡り他国を見て参りました。その度に新たな発見があり、それを産業りに生かすことができています。国を豊かにしていくためには優れた技術も他国で見て学ぶことが重要だと思っています。先達国の進んだ文化や技術が手に入れば、日本の軍事、教育、産業がさらに発展し、日本の近代化は更に進んでいくと思います。鎖国をしていた頃の日本と開国後、外国の文化を取り入れた今の日本ではどちらが快適かは一目瞭然です。外交が日本にもたらす利益を考えれば外交に力を入れているのは当然かと思っています。

軍事も教育も産業も均等に力を入れつつ、特に外交を目標に向け、日本の近代化を推し進めるためというところが重要だと思っています。富国強兵と目指すには、産業や軍事に最も影響を与える外交を重視していることが一番効果があると考えます。

M 生

パフォーマンス課題】

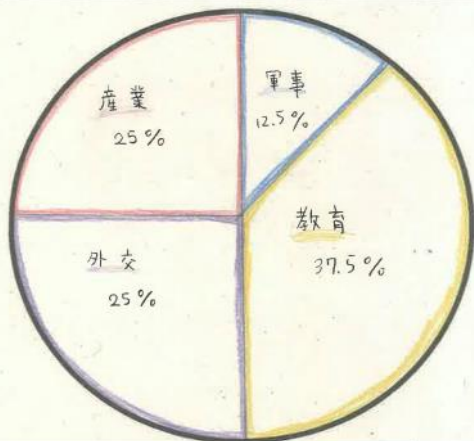
江戸時代が終わり、いよいよ時代は近代の幕開け！近代国家を目指す日本の大切な時期です。あなたは、明治政府の大蔵大臣(日本の財政を一手に担い、予算を立てる人)として、近代国家「日本」にふさわしい予算案をつくることを命じられました。そして、その予算案を明治天皇に上奏(説明)します。天皇「さて、予算案を報告せよ。」

「では円グラフとともに説明いたします。…」

この続きを書きましょう。

*軍事・教育・外交・産業の4つの分野の予算案を円グラフで表しましょう。

*なぜそのような予算配分にしたのか、明治天皇に伝えるように書きましょう。



では、円グラフをもとに説明いたします！

まず、軍事についてですが、自衛できる程度の予算があればよいと思います。外国との関係が大事な時、力ではなく言葉で解決すべきかと。ずっと鎖国していたらさきもりの他国に勝てるとも思いません…。また、先程外国との関係が大事と言いました。外交の予算は、4分の1とてあります。他国からの来客などには全でおもてなしするべきだと思います。後々の関係が良好になると思うためです。そして産業ですが、外交と同じくらい大切だと判断して、4分の1とてあります。直接的な国の収入になるため、力を入れるべきだと思いました。最後に、一番多く予算をとっているのが教育です。次の世代に優秀な人材を残すため、また教育をする側にも学べることもあると思ったためです。ちゃんとした知識・道徳をもっている人が1人でもいれば、この国はより良くなると思います。

A 生

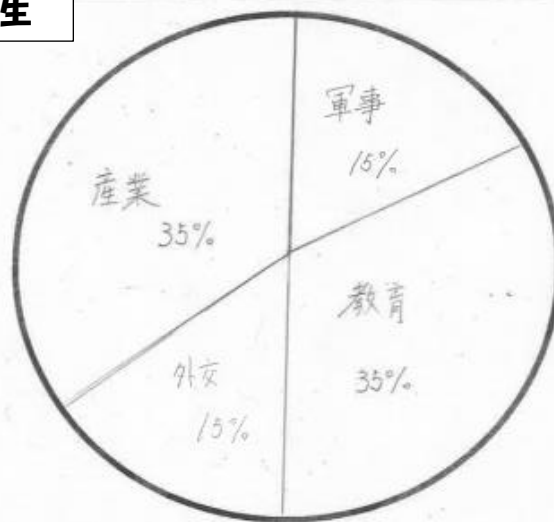


では、円グラフをもとに説明いたします！

まず近代国家をつくるために目玉が力を入れたのは産業です。明治政府は新しい国づくりのための「富国強兵」を掲げました。その「富国」を実現するため殖産興業政策を進めています。さらに産業を発展させるために交通や通信の整備、官営模範工場などでの外国の優れた技術を広める活動に力を入れていき国内を豊かにしていきます。そして産業と同じく力を入れているのが軍事です。これは富国強兵の「強兵」です。政府は徴兵令を出し、就労にかなわない満20歳以上の男子に兵役の義務を定めました。しかし江戸時代では戦いは主に武士の仕事でした。そのため平民には兵役としての技術や訓練が足りないと考えていた。そこで軍事に力を入れることで、近代的な武器の充実や、外国の軍人を招いて軍隊の整頓を行わせたりして、平民主体の軍隊を強くさせることが必要だと考えます。このように政府の力がかけた富国強兵。そのもとに軍事、産業にも力を入れているのだと見ています。そして次に力を入れているのは教育です。政府は国民に広く知識を与えるための「学制」を公布し、江戸の寺子屋から学校へと教育の場が変化しました。

しかし、教育費の負担や兵役は貴重な労働力であるため、学校に通える児童は多くありません。そのため教育に力を入れ、義務教育の基礎を築く必要があると思います。まず、軍事、産業そして教育に力を入れ、国内を充実させれば外交にも良い影響が及ぶと思います。「ドラムン」に倒れると、軍事だけ力を入れる国を「ミイア」国家、教育だけ力を入れる「出来が君」国家があるとして、ジャイアンや出来が君はドラムンには勝てません。なぜならドラムンには、7つの力強い敵の力を持つ強さをそなえており、それをどのように使い相手を倒すか（教育）の知恵も持っており、それを使い相手を倒す力を持っているからです（軍事）。私が目指す国家は軍事、産業、教育の3つに力を入れる「ドラムン」国家であり、ではこれで報告を終ります。では。

R 生



では、円グラフをもとに説明いたします！

まず始めに、これからの国内の政策の重点ですが、明治政府が以前から掲げてきた「富国強兵」の、実現のために、国力の充実に力を入れるべきではないかと思っています。そのため、今回の予算案では、教育、産業の割合を大きく確保させて頂きました。国の人間への教育に力を入れ、小さな頃から、多くの知識に触れさせることによって、一人一人の人間の将来が豊かなものとなり、その者が就いた仕事の作業効率の上昇、発展を図ることとなるでしょう。また、知識を得た者が、それを他に伝えることによって、様々な場所で学ぶ者が増加することも予想で、優秀な人材の育成、次に産業であります。教育によって得たものを産業に生かすことで、より高度な技術が生み出されたり、新たな製品が生み出されたりなど、大幅な発展を得ることとなるでしょう。

そうしたときに、資金が多くあればあるほど、その発展を止めることなく、進め続けることとなります。最後に軍事、外交ですが、国づくりに力を入れたことにより、不満の減った者たちが、国のために尽くそうと、兵役を務め、産業の発展により生まれた物などで、貿易し、国の能力を伝えることができれば、外交もさうまくなります。かの武田信玄も、国づくりに全力を注いだことにより、絶大な信頼を得て、戦国最強とも謳われる武将へとなりました。明治政府も国づくりに力を入れ、ついにまとった国として、他国との競争に打ち勝ちましょう！

事例②『文明のおこり』（1年）（H31 年度実践）

◇「世界の古代文明や宗教のおこり」学習指導要領を基にした構造図

ねらい	もとにする知識	個別事象・内容
世界の各地で文明が築かれたことを理解する。	世界の古代文明	人類の出現に触れる。
		中国の文明をはじめとして、諸文明の特徴を扱う。
	宗教のおこり	類似性など観点を定めて「生産技術の発達、文字の使用、国家のおこりと発展」「都市や巨大建造物、身分の分化」などの共通する特徴などに気づくことができるようにする。
		仏教、キリスト教、イスラム教などを取り上げる。
	ギリシャ・ローマの文明	古代の文明とともに大きく捉えさせるようにする。
古代文明や宗教が起こった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、古代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。		

四大文明(エジプト・メソポタミア・インダス・中国)を取り上げる。生徒は、前時までに四大文明の事実認識のみしている。今回、比較を通して共通点の考察、文明が栄えるために必要な事象の概念化についてパフォーマンス課題を通して学ぶ。本時、「文明が栄えるための条件」を多面的に考察することを課題として生徒に提示する。

◇本時

① ルーブリック(評価の指標)

	A 評価	B 評価	C 評価
・多面的にみる ・表現する	・文明が栄える条件を4つ以上見つけ、その条件がなぜ必要かも考え、魅力的に表現している。	・文明が栄える条件を3つ以上見つけ、その条件がなぜ必要かも考え、表現している。	・文明が栄える条件を2つ以上見つけ、表現している。
・対話的	・班で協力して課題解決を目指し、自ら進んでアイデアを出している。	・班で課題解決を目指し、アイデアを出している。	・自ら話せていないが、友だちの話を聞いている。

② パフォーマンス課題(シナリオ)

学習問題 四大文明はなぜ栄えたのだろう。

紀元前 1500 年ほど前、アジアの東に弱小かつ全く栄えていない地域「キータ」がありました。キータ王は、肺に持病があり自分の命が長くないことに気づきました。自分の代において何とか都市を栄えさせたいと願っていたところ、4つの栄えた文明があることを知りました。そこで、使者に4つの文明を見学に行かせ、「文明が栄える条件」を報告書にまとめて報告させることにしました。

4つの文明をめぐる、帰ってきた使者は、「キータ王、私たちは文明の栄える条件がよ～く分かりました。図にまとめてきましたので、それをもとに報告させていただきますね。・・・」

さて、この使者たちがつくった図や言葉の続きは、いったいどのようなものでしょうか。使者になりきって考えてみましょう。魅力的な報告書になるよう、次の点に注意してまとめましょう。

- 複数の文明をくらべ(共通点など)、文明が栄える条件を見つける。
- さまざまな視点から文明をみつめ、文明が栄える条件をできるだけ多く見つけられるとよい。
- キータ王に報告するつもりで、分かりやすく魅力的な(おもしろい)報告書を書く。

◇導入

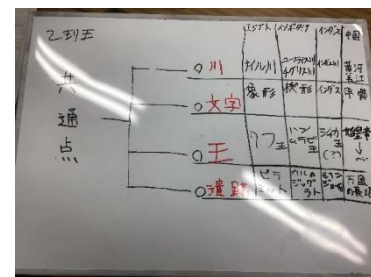
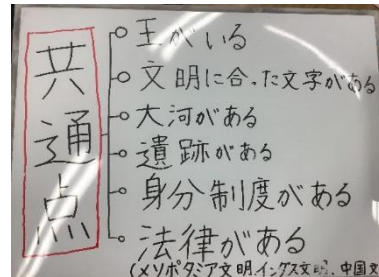
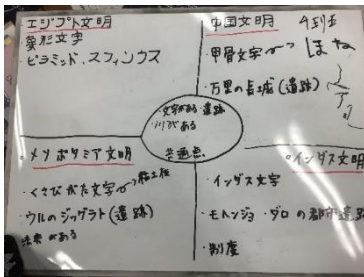
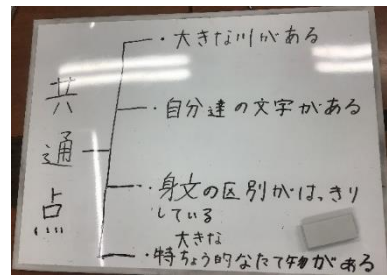
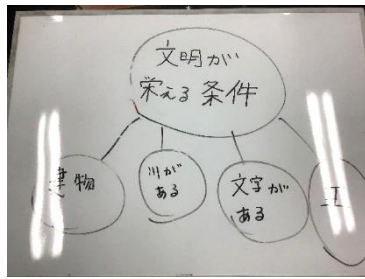
前時までに学習した四大文明の特色をパワーポイントで示しながら、復習を行った。その後、「四大文明はなぜ栄えたのだろう」という学習問題を教師から提示した。教科書・資料集を開きながら予想を一人一人立てた。全体で予想を共有した際、○水が近くにあったから農業が発達した○王がいたから国が安定した○文字があったから等の意見が出た。これらの特徴はすべての文明にあったか問うと、生徒たちはもう一度教科書等を開きながら調べ、ほとんど共通していることに気づいた。「栄えていた文明には、共通点がある」ことに気づいた生徒たち。そこから本時の課題が設定された。

◇実際の活動

課題設定後、シナリオとルーブリックを提示した。シナリオにあるように、まずはグループごとに「文明の栄える条件」を図にまとめていく。図のまとめ方については、各グループに任せしたが、これまでの授業において思考ツールを扱ってきたので、【くらげチャート】や【Xチャート】を使用するグループが多かった。どのような共通点(条件)があったのか振り返り、話し合いながら図にまとめていく。以下それぞれの図である。



《生徒が作成した図》



図が完成したグループから個人で、キータ王への報告文を書いていく。本時は個人で書く場面に時間がかかったが、次時班ごとに発表を行い、その中から数人全体でも発表する時間をとった。

《生徒の書いた報告分》

キータ王、私たちは文明の栄える条件がよ〜く分かりました。図にまとめてきたのでそれをもとに報告させていただきますね。まず、どの文明も大きな川の近くで発達していることが分かります。川があると、食料を確保できたり、水に困らずに農業ができるというメリットがあるかもしれません。そして、どの文明にもそれぞれ文字があることが分かります。メソポタミア文明には楔形文字、エジプト文明には象形文字、インダス文明にはインダス文字などといったそれぞれ文字があります。文字があると、文明を後世に残していくことができるでしょう。また、それぞれの文明に神のような存在がいます。神がいると人々は、神を信じようとなりさらに発展しやすくなるでしょう。キータ王も人々を統一すれば自分の理想の国になることは間違いなしですよ。最後に文明を支配するには大きな遺跡があった方がいいでしょう。遺跡があると未来にもそれが残り、キータ王のことをもっと多く知ってくれることでしょう。

このような条件をそろえれば、キータ王も有名になること間違いなしです。人々を従わせてキータ王の理想の国をつくりましょう。そのためにキータ王の病気を治さないと、栄える前に死んでしまったら王ではなく、私が有名になってしまいますからね〜。キータ王の文明を楽しみにしていますよ。

キータ王、私たちは文明の栄える条件がよ〜く分かりました。図にまとめてきたのでそれをもとに報告させていただきますね。まずは、それぞれの文明の近くには川があることです。エジプトには「ナイル川」、インダスには「インダス川」、メソポタミアには「チグリス川」と「ユーフラテス川」、中国には「長江」と「黄河」があります。川が近くにあった方が栄えるとおもいます。次に4つの文明には文字がありました。エジプトは「象形文字」、メソポタミアは「楔形文字」、インダスには「インダス文字」、中国は「甲骨文字」です。国で文字を統一した方が分かりやすく感じたのでそのようにした方がいいかと。さらにメソポタミア文明には「ハンムラビ法典」という法律を書いたものもありました。われらの国も法律をつくって国を治めていきたいなあ。それと法律をつくれれば人々が正しく生活できますよね。また、とてもビッグで魅力的な建物もありました。「ピラミッド」「スフィンクス」「モヘンジョ・ダロ」「兵馬俑」「ジググラト」などその文明の特徴となっていました。なので我々も次の世にも、その次の世にも残せる建物を造りましょうぞ！

私たちが調査した結果は「川」「文字」「法律」「建物」が必要でございます。さあ、キータ王よ！今こそ文明を築き上げるときでございます！来世にも残せる文明をつくりましょう！

◇全体を通して、「パフォーマンス課題」における成果と課題

- ・今までの学習から得た知識を、パフォーマンス課題を通してアウトプットすることにつながった。
- ・「だれかに伝える」ことを前提としたシナリオを作成したことで、自分の言葉で相手意識を持ちながら課題に取り組むことができた。
- ・図をまとめる段階においてグループでの活動を取り入れたことにより、個人活動に移った際も、手元にある図を参考にしながら文明の栄える条件を考えることができた。
- ・ルブリックが手元にあることで、何を目標として書けばいいのかが明確にされているため、いつも活動に移れない生徒もスムーズに個人活動に移ることができた。
- ・個での活動の際もグループで話し合いながら文章を書く姿が見られた。それを個人の評価とするかどうか。
- ・単元終末における課題であるため、発表等も入れると時数が大幅に伸びてしまう可能性がある。または個人差があり、授業内で課題が終わらない生徒も出てくる。